



並木中等story

令和3年10月25日号

別のキャラを演じている？

教育相談関係の会議で話題になった他校の話です。「私は友達が喜ぶから、私が嫌がることでもそのようなキャラの演技をしていました。」そのように話をした生徒は同級生に受け入れてもらいたいために、面白いキャラを演じていたそうです。仲間に入れてもらうために、偽りの自分を見せていたそうです。それでも、仲間に入れてもらえず、心を病みカウンセラーに相談しました。

自分の心を偽った行動はとても辛いものです。人は、“よい人”や“都合のいい人”を演じることがあります。短期間なら問題はないでしょう。私も演じることがあります。しかし、それが自分の思いとかなり隔たっていたり、期間が長くなったりすると精神や体調を崩します。心と行動の一致は大切なのです。10月15日号でも國分先生の話として、幸福は自分をありのままに受け入れ、他の人にも好意的な感情がある時であると紹介しました。自らの心に沿った行動が人として生きやすい姿なのです。



《祝！日本学生科学賞県審査で受賞》

日本学生科学賞県審査が行われ、本校4年の小栗さんの作品「エンドウの枝分かれのメカニズムを探る」が県議会議長賞を、同じく大久保さんの作品「ニホンヤモリの体色変化」が県教育長賞を受賞しました。おめでとうございます。